令 和 8 年 3 月 1 0 日
世 田 谷 区 立 松 原 小 学 校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

令和７年度学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価アンケートの回答形式は、令和４年度からオンラインになった。保護者対象アンケート回収率は以下のように推移した。

令和３年度以前　紙面回答　　９０％以上
令和４年度　　オンライン回答　６４．５％（４２３／６５５）
令和５年度　　オンライン回答　７１．４％（４６８／６５５）繰り返しのメール呼びかけを実施した。
令和６年度　　オンライン回答　５７．４％（３８３／６６７）
令和７年度　　オンライン回答　７６．２％（５０６／６６４）

今年度は回収率が向上したが、今後もアンケートの精度を上げるためにも、紙面とオンラインを複合的に取り入れる等、更に協力を求めていきたい。なお今年度調査実施期間は、１１／７～２０であった。１０／２８に運動会を実施した。(雨天順延のため平日開催）調査期間中は、特に大きな学校行事はなく、インフルエンザ流行による学級閉鎖があった。（９０周年児童集会を１１／１３に予定していたが、１２／２に順延した。）令和６年度は、調査期間中に学芸会（１１／１５、１６）を実施した。

昨今の文科省による教員の働き方改革を背景に、都・区の教育委員会の方針にならいながら、学校を変革していくことが急務となっている。また今年度、本校は校長・副校長が着任して２年目であり、前年度の取組を踏襲しながらも、年度始めに、教科担任制（４～６年生)、プレクラス制（１年生)、通知表を年間２回に変更した。そのことについて、いかに児童・保護者・地域に学校の考えを発信し、ご理解・ご協力をいただきながら、学校教育活動ができたかもこの調査に反映していることと思われる。

アンケート結果を基にした分析とともに、各学校行事後の記述によるアンケートや実際に感じた児童や学校の様子についても触れたい。なお、文中の「肯定的な評価」は、アンケートの評価「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」のうち、「とても思う」「思う」を合わせたものの割合を示す。

学校の教育活動についての評価の高かった項目

・児童アンケートの評価項目２６のうち、肯定的評価が８０％を超えたもの―　R7：１４項目　R6：１４項目
・保護者アンケートの評価項目３９のうち、肯定的評価が８０％を超えたもの―R7：１１項目　R6：１４項目
・地域アンケートの評価項目１７のうち、肯定的評価が８０％を超えたもの―　R7：　５項目　R6：　５項目

特に評価が高かった（肯定的評価）項目は以下の通りである。

＜児　童＞	R7	R6
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	９３．２％	９３．９％
先生は、ていねいに指導してくれる。	９１．７％	９２．０％
先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	９１．３％	８９．１％
私は、自分からあいさつをしている。	８９．３％	
学校行事は楽しい。	８９．８％	
先生に注意されたことは、理解できる。		９２．４％
学校生活は楽しい。		９１．７％

＜保護者＞	R7	R6
学校行事は、子どもにとって楽しい。	９１．５％	９５．１％
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	９２．５％	９２．３％
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	９０．５％	９２．３％
私は、学校公開にすすんで参加している。	８４．２％	８８．７％
本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	９１．５％	
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。		８９．５％

＜地　域＞	R7	R6
学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。	９６．９％	９４．６％
学校行事の内容は充実している。	８１．９％	９２．７％
学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	８４．８％	８５．４％
事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。	８１．８％	８３．７％
学校 HP に、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。	８１．８％	
学校の重点目標が明確である。		９０．９％

地域向けアンケートの「本校の子どもたちはあいさつをしている」の項目では、R6 年度７４．５％という数値が出ていた（R3 年度７９．５％、R4 年度８５．４％、R5 年度９５．４％）が、今年度は、７５．８％という数値であった。これは決して低い数値ではなく、本校の児童の挨拶の習慣が肯定的に捉えられていると言える。一方で、挨拶をすることは、声かけが途切れると、すぐになくなってしまう習慣とも言える。地域、学び舎とのあいさつ運動を今後も定期的に実施してもらいたい。しかし本来ならば、本校児童の良さである挨拶については、今後も重点目標ではなく、当たり前の習慣化として定着させていきたい。挨拶の意味や大切さを伝え、良き伝統として今後も継続してほしい。

広く本に触れる機会の充実

R5　児童「わたしは、本を読むことが好きである。」　肯定的評価(R5 58.1%)
R6　児童「私は、本（電子書籍を含む）を月１冊以上読んでいる。　同（R6 66.4%）
R7　児童「私は、本（電子書籍を含む）を月１冊以上読んでいる。　同（R7 70.4%）

R5　保護者「子どもたちは、読書が好きである。」　肯定的評価(R5 57.1%)
R6　保護者「子どもたちは、本（電子書籍を含む）を月１冊以上読んでいる。同（R6 57.1%）
R7　保護者「子どもたちは、本（電子書籍を含む）を月１冊以上読んでいる。同（R7 62.5%）

「読書」に関する項目については、昨年度から項目内容を変更し今年度も継続した。アンケート項目の「読書」を「物語を読むこと」のみと捉えている児童が多いことも考えられるため、評価委員会では、「読書」を「広く本に触れる機会」と捉えて、「物語を読むこと」はもちろん、「調べる学習で本を使う。」「図鑑で調べる。」といった広い意味で、児童が本に触れる実態を明らかにすることが必要なのではないか、と考えた。

児童の実態調査を「本が好き」から「本を読む（事実)」とした。月に１冊以上の読書は、もっと数値が上がることを期待したが、今年度も肯定的評価は微増し、６～７割に達した。本を読むことが「好き」な児童が、そのまま「読む（事実)」となったと読み取れる。それでも、学校では、調べる学習に図書を使用したり、毎週の図書の時間が設定されていたりするなど、日常的に読書の機会は確保されている。また、「保護者による朝の読み聞かせ」「ことり・たんぽぽの会のお話会」など、読み聞かせの機会は多く設定されている。その上、図書委員会を中心とする

読書旬間の取組は工夫され、９０周年にまつわる取組を行った。児童が楽しんでいる姿も見られる。授業における調べ学習では、本から一人一台タブレット端末（ipad）の活用に推移し、児童もその手軽さに慣れていることも考えられる。後述でも触れるが、その情報の取扱いについても注意が必要である。なおのこと、本を手に取る機会とその良さを味わっていける機会を今後も継続して増やしてもらいたい。

学び舎の区立中学校の情報提供、交流活動の充実と周知

肯定的評価（数年間の推移）

児童「区立中学校に関する情報が提供されている。」

	令和７年度	令和６年度	令和５年度	令和４年度
５年生	44.2%	36.9%	32.4%	46.3%
６年生	50.4%	68.1%	71.6%	68.8%

保護者　肯定的評価

	令和７年度	令和６年度	令和５年度
学び舎の区立（幼稚園）中学校についての情報が提供されている。	項目削除	**44.9%**	**41.5%**
近隣の幼・小・中学校で構成する「学び舎」による交流が行われていることを知っている。	**67.4%**	**61.2%**	

児童「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」

	令和７年度	令和６年度	令和５年度	令和４年度
５年生	40.0%	37.5%	28.6%	27.5%
６年生	35.1%	68.2%	81.8%	69.8%

学び舎に関する項目について、数年間の推移である。両項目とも、５・６年生の数値に差があるのが分かる。学び舎の区立中学校についての情報提供や直接的な交流活動が活発に行われるようになったことが要因と考えられる。調査時期が結果に影響していると考えられるが、学び舎の中学校生徒が来校し、あいさつ運動を一緒に行ったり、本校の代表児童が学び舎の中学校へ行きあいさつ運動を行ったりもした。また、昨年度同様に、引き続き、５年生や保護者に対しても、今後行われる交流の計画について伝えたり、あいさつ運動や運動会の運営補助に来る中学生の活動をキャリア教育に価値付けて伝えたりすることで周知を図り、両者の認知度を同様に上げていくことを期待したい。

自己肯定感を育む教育の着実な積み重ねと家庭との連携

児童「わたしにはよいところがあると思う。」肯定的評価

令和７年度	令和６年度	令和５年度	令和４年度
70.4%	**74.4%**	**74.6%**	**64.8%**

この項目に関しても、数年間の数値を追ってみたところ、多少の増減がありつつも数値を伸ばし、定着していることが分かった。なかよし班活動（縦割り班活動）や委員会等で高学年児童が学校のリーダシップをとる機会や役割が増えた。児童が、その活動の中での成功体験や先生や友達に認められる経験を通して自分のよさを感じる機会があったことも一因として考えられる。自己肯定感は一朝一夕に上がるものではない。家庭や地域での経験をベースとして、学校等様々な人間関係の中で少しずつ培われて形成されていくものである。引き続き学校と家庭で連携して、児童が安心してありのままの自分を肯定できる環境をつくっていただきたい。

タブレット型情報端末等ＩＣＴの活用の定着

児童「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価

令和７年度	令和６年度
86.5%	85.3%

保護者「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価

令和７年度	令和６年度
63.4%	67.6%

ＩＣＴの活用については、すっかり定着した様子が伺える。学校公開でも、低学年からタブレット型端末を学習に使用する様子が見られた。ただ、児童の評価と保護者の評価との開きはまだある。学校は、引き続き活用の状況を保護者に十分に情報提供していくとともに、学校・家庭での使用に関するルールの徹底に努める必要がある。さらに今年度は、タブレット型端末の活用ルールについても調査をした。

児童「私は、ipad を使うルールを守っている」肯定的評価

令和７年度	令和６年度
85.9%	82.3%

保護者「子どもたちは、ipad を使うルールを守っている」肯定的評価

令和７年度	令和６年度
59.5%	55.5%

こちらは、児童と保護者の回答に差が見られた。数値は増えているものの、学校でのルールは守っているが、一方で家でのルールは守れているかどうかについては、保護者の回答では、あまり守られていない。との認識となった。今後も学校、家庭と連携しながら、学校・家庭でのルールについても児童に守っていくよう伝えていくことが必要である。また、ネットリテラシー教育の積極的に推進し、小学生のうちにマナーや法律の面、またネットによる犯罪やその巧妙な手口、タブレットやスマホを使用する際の注意点を学校と家庭で共に高めていただきたい。

キャリア・パスポートの活用によるキャリア教育の充実

児童「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」**肯定的評価**

令和７年度	令和６年度	令和５年度
60.7%	58.5%	81.4%

保護者「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」**肯定的評価**

令和７年度	令和６年度	令和５年度
43.5%	44.2%	49.3%

児童については、昨年度と比較すると、やや増えたが、保護者の評価はやや減った。普段の授業が自分の将来につながっていることを確認しながらすすめてもらいたい。保護者への周知では課題が残るが、キャリア・パスポートの活用がさらに充実することで、児童にとって学校の教育活動におけるキャリア教育が当たり前のものになっていくのではないだろうか。内容の改善を含めて、更に充実をはかることが必要であろう。